

朝霞駅周辺エリア 官民連携まちなか再生推進事業

# エリアビジョン (ベータ版)



あさかエリアデザイン会議  
202X年 X月X 日

01 はじめに～朝霞で描く未来～	2
02 エリアの現況分析	
エリア全体現況分析	4
朝霞駅南口駅前広場現況分析	5
朝霞駅南口駅前通り現況分析	6
駅西口富士見通線現況分析	7
市役所前広場(花の池テラス)現況分析	8
市道1000号線現況分析	9
シンボルロード現況分析	10
基地跡地周辺現況分析	11
03 エリアの目指す将来像	
目指す将来像に向けた8つの観点との連携	13
エリアビジョンのコンセプトとキーワード	14
1. 朝霞駅南口駅前広場【Entrance 玄関】	16
2. 朝霞駅南口駅前通り【EN-GAWA 縁側】	19
3. 駅西口富士見通線【Living 居間】	21
4. 市役所前広場(花の池テラス)【Lounge 応接間】	23
5. 市道1000号線【Dining 食堂】	25
6. シンボルロード【Terrace テラス】	27
7. 基地跡地周辺(青葉台公園・あさかの森)【Garden 庭】【KidsRoom 子供部屋】	30
04 目指す将来像を実現させるための施策	
目指す将来像の実現に向けた取り組み	32
【ASAKA STREET TERRACE プロジェクト】	33
【あさかのつかいかたガイドブック作成運用プロジェクト】	34
【あさかのアート・ミュージックプロジェクト】	35
【あさかのグッズ作成プロジェクト】	36
【商店会にぎわいプロジェクト】	37
【店舗リノベーションプロジェクト】	38
【ストリートファニチャー設置プロジェクト】	39
【人中心のみちづくりプロジェクト】	42
05 将来像に向けた事業のロードマップ	
将来像に向けた事業のロードマップ	44

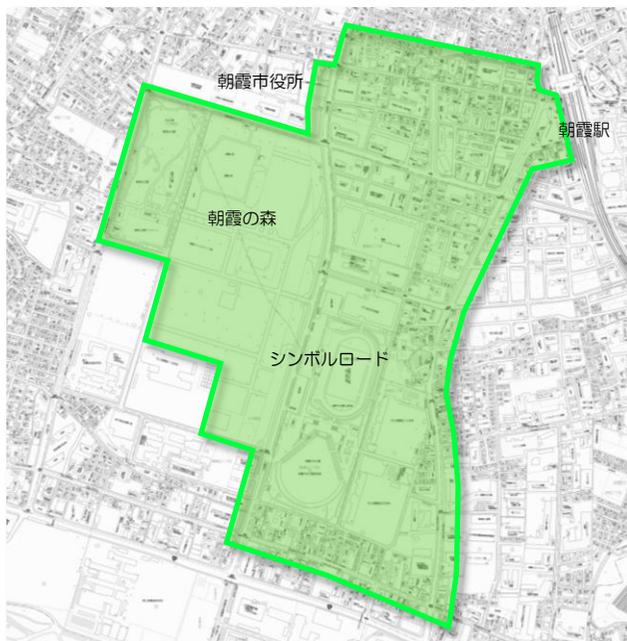
# 01 はじめに ～朝霞で描く未来～

駅前から商店街の賑わいを抜け、まちなかに進んでいくと、その先に広がる武蔵野のみどり。

住宅街と商店街、シンボルとなるみどりが程良く肩を並べているまち、朝霞。

そんな朝霞のまちで、住んでいる人も訪れる人も、誰もが『居心地が良く、歩きたくなるまち』と、『人でにぎわう魅力的な商業エリア』の創出を目指して、**官民連携による公園や街路空間の活用を軸に**、朝霞だからこそ実現できる朝霞ならではの未来(=エリアビジョン)を皆さんと共に描きます。

## <エリアビジョンの対象とするエリアと特徴>



### 【エリアの強み】

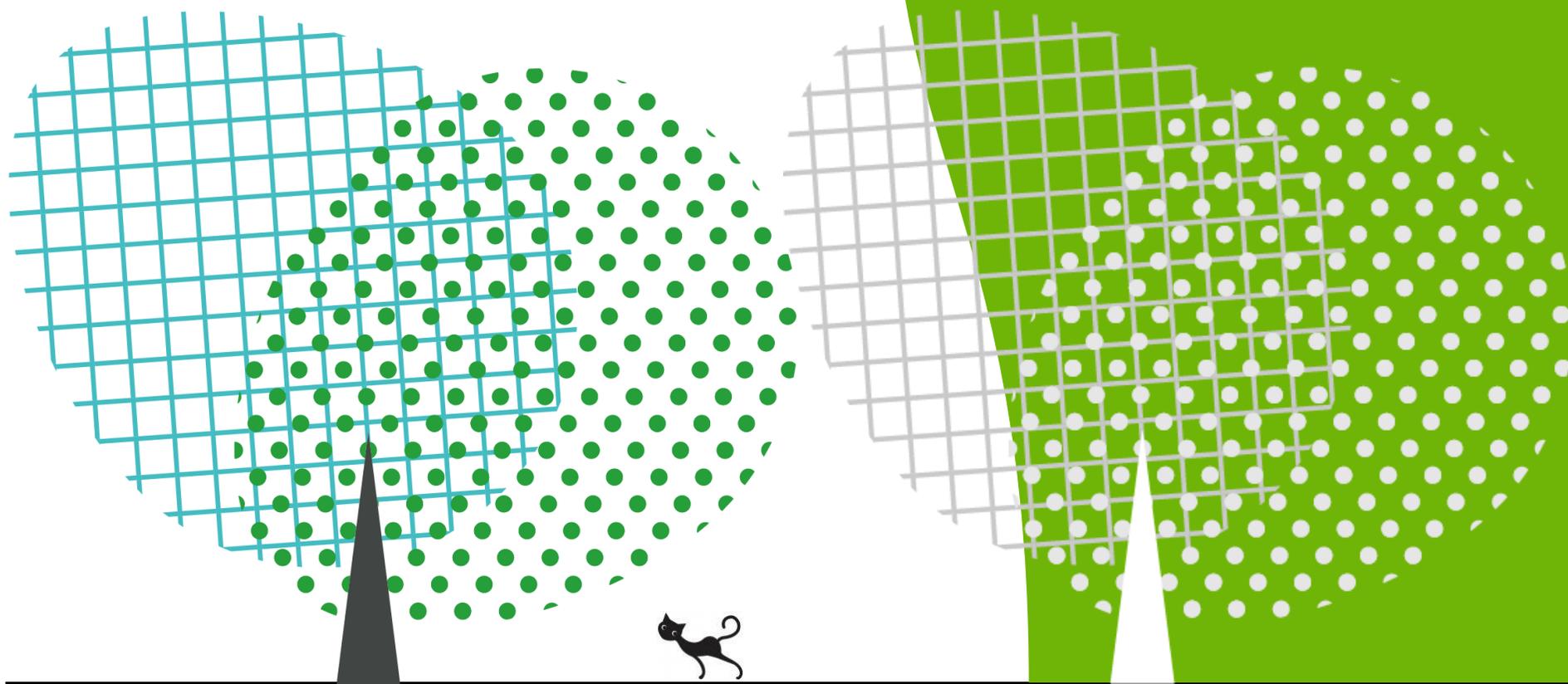
- ・市役所、公民館、図書館、都市公園、学校など公共施設が集中しており、日々多くの人の往来や滞留がある。
- ・公共交通網が整備されている。
- ・朝霞駅南口は近年高層マンションの建設が続いており、定住人口が多く、賑わいのポテンシャルに優れる。
- ・令和2年2月に完成した市役所横のシンボルロードなどのウォークアブル空間がある。
- ・シンボルロード西側の基地跡地については、都市公園等の地区施設の整備を実施していく予定(都市計画法に基づく地区計画策定済)。
- ・土地区画整理事業の実施により、駅前広場など都市基盤が整備されている。
- ・シンボルロード周辺が朝霞市景観計画に基づく「景観づくり重点地区」に指定されており、良好な景観形成の枠組みがある。

### 【エリアの弱み】

- ・道路の幅員が狭く、歩道が設置されていない箇所もあり、安全な歩行者空間の確保が求められている。特に、駅前通りについては、車の往来が多く、歩行者中心のまちなかとは言い難い状況である。
- ・駅周辺の商店街は、古くからの商店が散在しており、空き店舗が増加するなど、賑わいの観点で課題がある。
- ・駅前広場や駅前通りなどは緑が少ないため、魅力的な緑空間の創出による交流拠点づくりなど、緑の多面的機能を活用するグリーンインフラの充実が求められている。

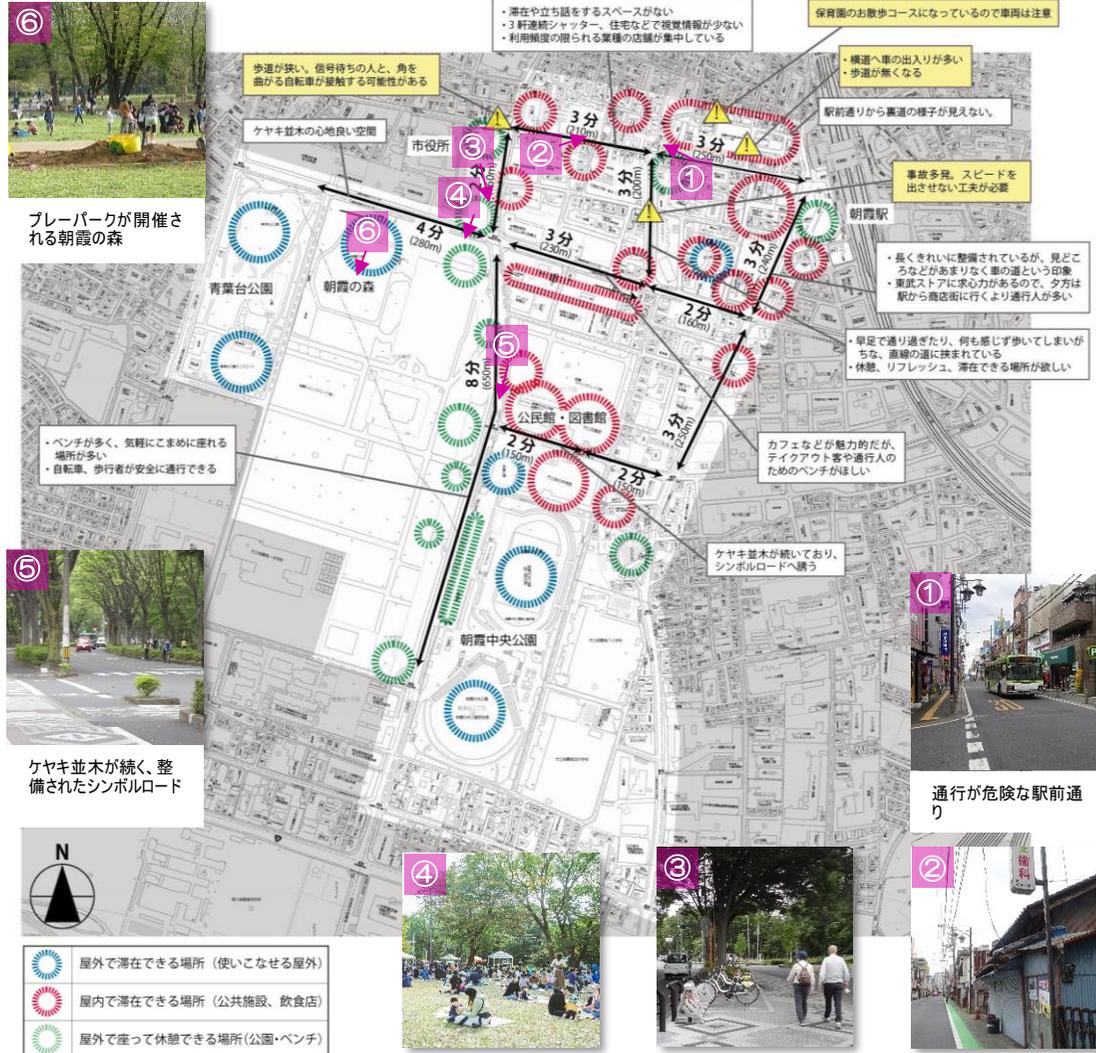


## 02 エリアの現況分析



# 【エリア全体】現況分析

- ・自転車、自動車、バス等まちなかを巡る様々な交通手段が選択できるよう整備されている。
- ・人々が滞在できる空間の周辺にもそれらの施設があり、計画エリア全体に人々の滞在が期待できる。



プレーパークが開催される朝霞の森



ケヤキ並木が続く、整備されたシンボルロード



- 屋外で滞在できる場所（使いこなせる屋外）
- 屋内で滞在できる場所（公共施設、飲食店）
- 屋外で座って休憩できる場所（公園・ベンチ）



イベント利用可能な芝生広場



設置密度が高いシェアサイクルポート



通行が危険な駅前通り



建ち並ぶ空き店舗

## 〈人口・世帯〉

- ・市の中心市街地につき、定住・交流人口が多く一定の賑わいがある
- ・エリア内には多くの中高層マンションの他、公民館、学校、大規模公園、図書館など各種公共施設が集積していることで、多様な世代が活動している

## 〈建築物〉

- ・まちなみに特徴や魅力があまりなく、何も考えず歩いてしまいがちな道が多い印象
- ・駅前にはマンションやビルなどの人工物が多く、やや無機質な景観となっている

## 〈公共空間〉

- ・シンボルロード周辺は開放感のある豊かな自然が広がっており、まちの中で安らぎを感じることができる稀有なスポットとなっている
- ・駅前広場やシンボルロード、朝霞の森など、活用できるオープンスペースが非常に多く、まちの魅力の拡張性に富む

## 〈交通・街路〉

- ・朝霞駅は東京都心へのアクセスが容易な駅であり、1日に7万人以上の利用がある
- ・交通結節点として路線バスや循環バス、シェアサイクルなど、様々な移動手段が充実している
- ・公共交通が充実している一方、シンボルロード周辺を除くエリアでは、道路の幅員が狭く、歩道が無い箇所もあり、歩行者にとって歩きにくいまちなかとなっている
- ・駅前通りはバスが双方向で通行しており、交通安全上、危険な状態となっている

## 〈活動・体験〉

- ・彩夏祭、アサカストリートテラス、冬のあかりテラスといった大規模イベントがエリア内で開催されている他、朝市や移動式プレーパーク、バザーなどの個々のイベントも比較的盛んに行われている

## 〈経済〉

- ・駅周辺及び駅構内には、スーパーの他、小規模ながら個々に集客力のある商業施設がある
- ・商店街は、店により賑わいや魅力がある一方、全体としてはエリアに店が点在し、数や密度が少なく、十分に賑わっているとは言えない
- ・駅前通りなど一部のエリアでは空き店舗化が進んでいる

## 〈文化・歴史〉

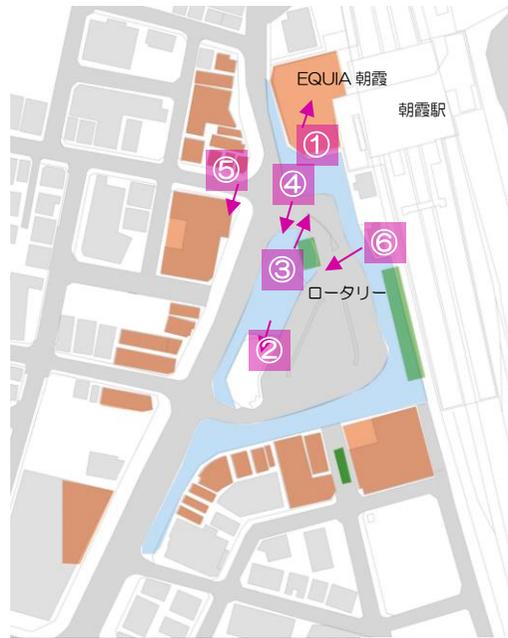
- ・米軍基地時代から根付いているジャズや、本田美奈子・尾崎豊にゆかりがあるなど、音楽のまちとしての文化・歴史がある
- ・まちなかには、音楽などの文化・歴史を感じさせる要素やイベントが少ない

赤文字:強み  
青文字:弱み

# 【朝霞駅南口駅前広場】現況分析



- ・日々多くの人々が行き交う駅前には、広々とした広場によって余裕のある空間が確保されている一方で、普段は閑散としている。
- ・「あさからしさ」を組み込むことで、駅前から魅力を街中に広げることが期待できる。



① 駅直結の商業施設はテナントごとに賑わいがあり、一階店舗は屋外に向けた明るく開放的な設えとなっている



② 各種イベント時には利用される  
駅前広場は広いスペースがあるが、普段の使い道が不明で、利用者が少なく、閑散とした印象を受ける



③ ベンチ、花壇が整備されているが、憩いの場としての彩りや装飾が少なく、活用されていない



④ 通勤・通学の時間帯は、多くの駅を利用する人々で賑わう  
駅と広場がスクランブル交差点で分断されており、一体感がないので、広場へ渡る人は少ない



⑤ カフェにテラス席が設置されており、小規模ながら開放的な空間となっている。  
歩道は店舗の看板等が多く置かれ、活気がある一方で煩雑な雰囲気となっている  
一部の看板は歩行や滞留の妨げとなっている



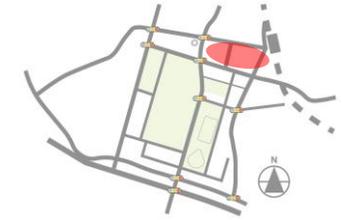
⑥ ロータリーは空間や幅員に余裕があり、車の利便性は良いが、その分人が利用できる歩道や広場は狭い。  
志木駅、大泉学園駅、254号線付近、新座方面など、各方面への路線バスが発着し、交通結節点として利用客が多い  
全体的に憩いとなる緑が少ない

未来に向けて

赤文字:強み  
青文字:弱み

人びとを出迎え、送り出す、おもてなしの玄関口へ →P.16

# 【朝霞駅南口駅前通り】現況分析



- 人々の生活に密着した商店が多いことから、交通安全対策や美装化など、通りを歩く人が安全で魅力を感じるような道づくりを行うことで、更なる賑わいが期待できる。



- アサカストリートテラスなどのイベント時には歩行者天国となり、多くの店舗が路上出店し、人々で賑わう



- 銀行やスーパーなど、様々な物販・飲食・サービス店が立地しており、一部店舗は常に人で賑わっている
- 店舗前に広い滞留空間があるところもあり、テラス営業など屋外への展開も望めるが、現状では違法駐輪対策等の事情から十分には活用されていない



- 通りに緑がほとんどなく、ベンチなど買い物の途中で一休みできる場所も少ない
- 各店舗がそれぞれ看板を掲出しており、賑やかである一方、景観としての統一感や洗練性はない



- 通勤、通学の時間帯は学生を含め多くの人が通りを利用し、混雑する
- 歩行空間が狭く、側溝の蓋の上を歩かざるを得ない上、電柱などの障害物も多く、歩きにくい
- 歩車道が一体となっている中を、バスが双方方向で通行しており、安全な歩行者空間が確保されていない
- ウォーカブルの点で駅前広場からの魅力の連続性にやや欠ける



- シャッターが閉まっている店舗が点在しており、通りにそれを補完するような設え、デザインもなく、閑散とした印象がある

未来に向けて

交通を整理し、歩く人を大切にするみちへ →P.19

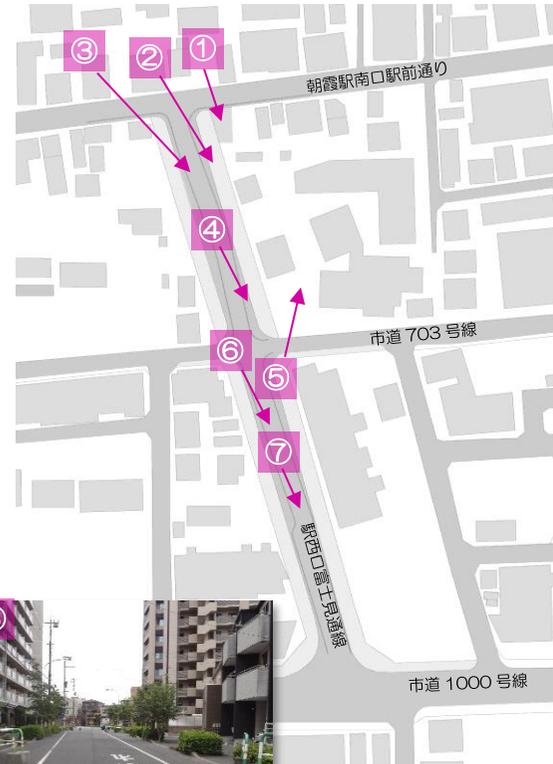
赤文字: 強み  
青文字: 弱み

## 【駅西口富士見通線】現況分析

- ・朝霞駅から至近にあり、歩道、車道ともに十分な幅員が確保されている道路。
- ・車歩道をそれぞれ再配分し、整備することで、駅前広場・駅前通り・市道1000号線とつながる、安心安全で新たな魅力を持つ空間への転換が期待できる。



- ・駅前通りと市道1000号線を結ぶ道路で、ゆとりのある空間が確保されているにもかかわらず、現状、車両及び歩行者の往来がかなり少なく、有効活用されていない(車道:約9m 歩道:約4.5m)
- ・交通安全対策用に設置された車止めが目立ち、開散とした印象がある
- ・市道703号線との交差点では事故が多発しており、交通安全上の課題がある



① 小規模ながら商店街の中の貴重な休憩スペースとなっているが、中央のスペースは現状十分に活用されていない



⑤ 公共空地として未整備・未活用であり、今後、役割の付加や利活用が課題



④ 植栽帯や花壇があるが、それらの総量に対して空間が広く、他に美化等の装飾も施されていないため、彩りが物足りない印象となっている。



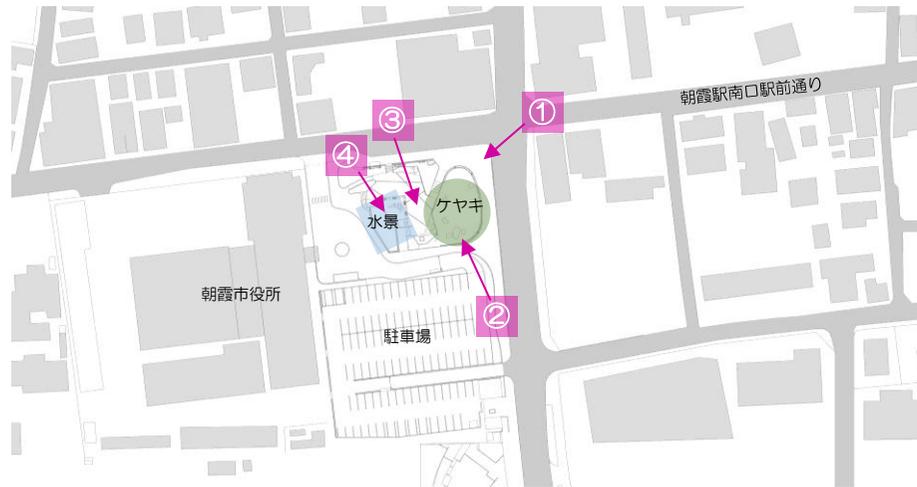
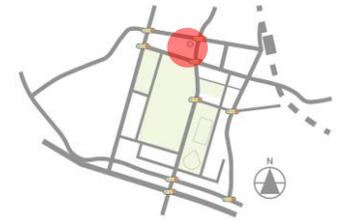
未来に向けて

ゆとりの空間を活かして特色あるみちへ →P.21

赤文字:強み  
青文字:弱み

# 【市役所前広場（花の池テラス）】現況分析

- ・駅前通りとシンボルロードをつなぐ都会的な空間と自然の結節点として、人々が心地よくくつろげる空間となっている。
- ・市のシンボルのケヤキをランドマークとして、清涼感と生物多様性に富む水景や、空間に潤いを与える緑、休息のためのベンチなど、多世代が水辺の花と緑を楽しみながら憩える要素が充実している。



①ケヤキがシンボルロードの「はじまりのケヤキ」として市の景観重要樹木に指定されており、ランドマークとなっている



②広場が道路からセットバックしているため、ゆとりと広がりのある歩行空間が確保されており、見通しのよい交差点となっている



③広場は、日頃から多様な世代の人々が滞留できる憩いの場として使われている  
 ・保育園児の散歩コースに含まれ、子供にも親しまれている  
 ・夜には広場全体がライトアップされ、昼とは異なるモダンで落ち着いた雰囲気の広場となる  
 ・夏の日中は緑陰が少ない



④駅前通りとシンボルロードをつなぐ結節点として、水と緑と花が調和した、上質な空間が広がっている  
 ・池では水生昆虫（トンボ）、水鳥などの生物が来訪するなど、生物多様性に富み、広場の景観に彩りを与えている  
 ・各種グリーンインフラが整備され、みどりに親しみながら四季の移ろいを感じることができる

未来に向けて

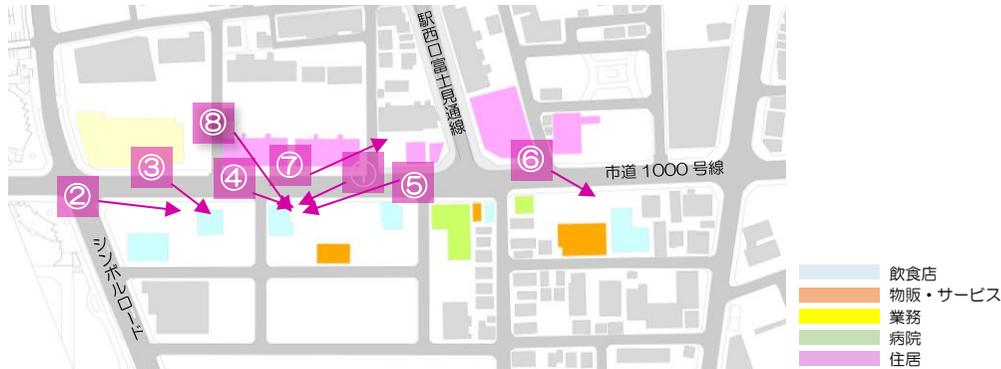
まちの顔として、朝霞の未来を象徴する広場へ →P.23

赤文字: 強み  
 青文字: 弱み

# 【市道 1000 号線】 現況分析



- ・沿線には広い駐車場がある飲食店などが立地している。
- ・歩道と店舗の境界等を整備することで、店舗前を歩行者に優しい空間とすることが期待できる。



- ・店舗側にも植栽地が整備され、手入れがされている
- ・住宅ゾーンの歩道は、一部区間ながら街路樹とマンション敷地内の緑地により歩道の両側に緑が充実し、心地よい緑陰空間となっている
- ・一部の飲食店にはテラス席など開放的な空間がある一方で、前面の大通りを車が多数走っており、落ち着きや心地よさの点で環境に課題がある



- ・沿道にはカフェやファミリーレストラン等の飲食店が立地している
- ・各店舗に広い駐車場があり、車の利便性は良いが、その分テラス席など人のためのスペースは少ない印象
- ・車道と歩道が分離されており、安全な歩行空間が確保されている
- ・歩道に接近して駐車場や大形看板があり、歩行者にとって、やや圧迫感がある

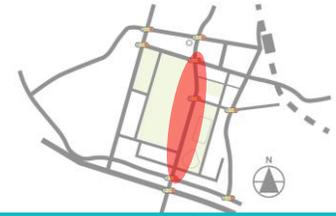
- ・歩道に面した部分の植栽のボリュームが少ない
- ・商業ゾーンの歩道にも街路樹はあるが、駐車場側に高木が少ないため、緑陰が生まれていない
- ・車道幅員が広く、道路両サイドの歩道が分断され、一体性は感じられない

未来に向けて

食事を楽しみながら、発見のあるみちへ →P.25

赤文字: 強み  
青文字: 弱み

# 【シンボルロード】現況分析



- ・周辺の緑地も含めて心地良い自然環境が広がる空間。
- ・散歩やジョギングなどを行う日常的な通過動線としてだけでなく、自然の中での体験・活動が可能な滞在空間に成り得る。

市役所前広場  
北口広場  
中央広場  
南口広場  
中央公民館 図書館  
総合体育館  
朝霞中央公園  
現状回遊路のサブ動線

①

②

③

④

⑤

⑥

赤文字: 強み  
青文字: 弱み

- ・心地よい緑陰空間
- ・木々の下で滞留できる場所が点在している
- ・平日も散歩やジョギング、親子連れ等で賑わう
- ・図書館や公民館など、多くの公共施設が隣接している
- ・巨木の連なる森の景観と都市的な空間が融合している
- ・運動目的にも活用できる広い歩行空間やオープンスペースがある

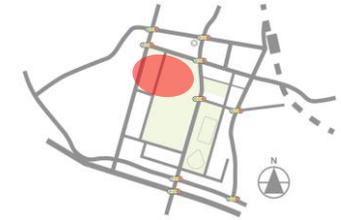
- ・歩道と車道が完全に分離されており、安全で快適に歩けるウォークアブル空間となっている
- ・自転車と人が余裕をもってすれ違いできる幅員を確保している
- ・歩道がバリアフリー化されている
- ・まちの中心に片側30m幅の緑の歩道は珍しく、アイデンティティと成り得る
- ・ベンチが多く、気軽に休める空間が多くある
- ・図書館からケヤキ並木が続いており、シンボルロードへ人を誘う
- ・緑とまちなかの魅力向上構想において、回遊ルートが設定されている
- ・朝霞中央公園への横断がしにくい
- ・花壇など花を楽しめるものが少ない
- ・インフラ設備(トイレやイベントで使う電源等)が不足している

- ・車道も含めて、イベントができる空間が整備されており、ストリートテラス、冬のあかりテラス、彩夏祭等のイベントで賑わう
- ・広場空間の様々な活用により居心地の良いまちの中心空間となることが期待される
- ・イベントなどの使い方のルールが不明
- ・十分な有効活用がされていない

未来に向けて

まちの象徴となり、五感で感じるみどりのみちへ →P.27

# 【基地跡地周辺（青葉台公園・あさかの森）】現況分析



- 様々なイベントや活動で日常的に盛り上がりのある空間。
- 賑わいを公園外にも広げ、街中の様々な場所での活動の展開が期待できる。



- 広場の様々な利用方法を、利用者が展開している
- あさかの森はプレーパークなどの様々なアクティビティを中心に、子供や親子連れなどの利用が比較的多い
- 青葉台公園は健康遊具やテニスコートラジ体操などを楽しみ高齢者など多様な世代に利用されている



- 空間すべてが遊びや学習の場として活用される
- 青葉台公園は大型遊具や噴水などの親水施設がたくさん設置されている
- あさかの森は構造物が少ないことで多様な遊びができる広いオープンスペースがある。また、親の目が届くので親も子も安心して利用できる
- 敷地内に緑が多く心地よい
- あさかの森は国有地の暫定利用のため構造物が少なく、トイレや水道、自動販売機などが不足している
- あさかの森は照明設備がないため、日中の利用に限定されてしまう



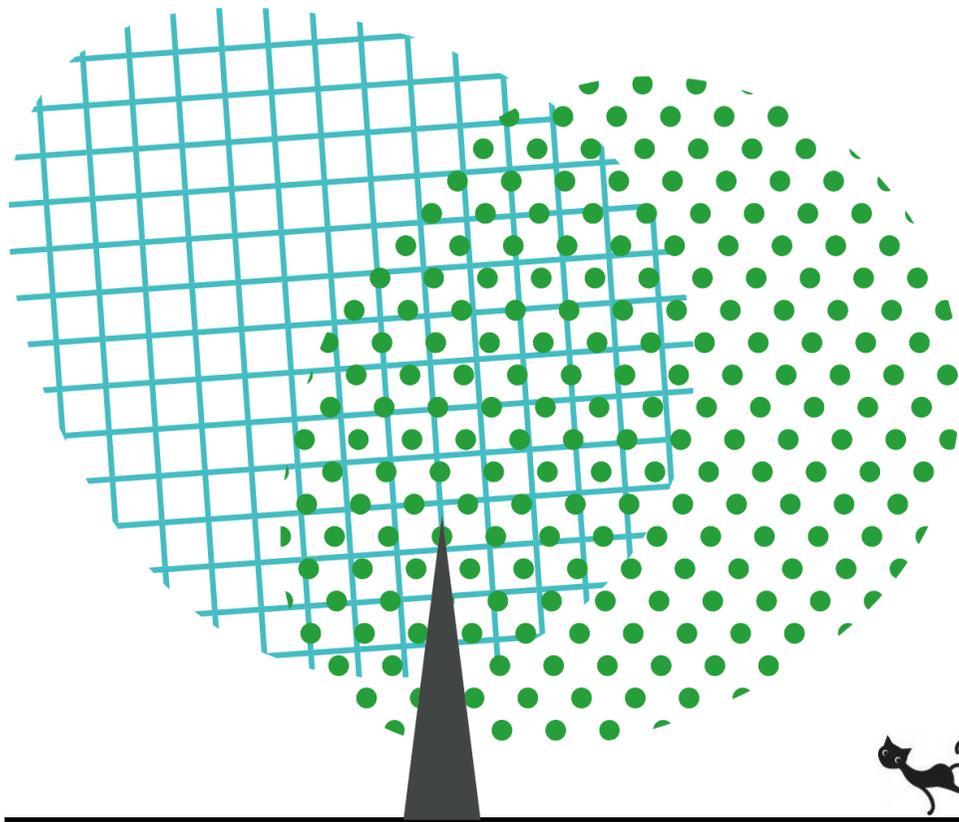
- 他の公園ではできない体験ができる
- プレーパーク(冒険遊び場)として活用されている
- 子供たちが楽しく遊べるプレイランドとして、cocoiraoba(ココイロアオバ)などの様々なイベントが開催されている
- 「憩いと交流の拠点」の形成を目標として、都市計画法上の地区計画が定められている
- あさかの森は営利目的での利用ができないので、イベントの種類も限られている
- 朝霞の森を含む基地跡地公園への整備が進んでいない

未来に向けて

遊びや学びがある空間へ →P.30

赤文字:強み  
青文字:弱み

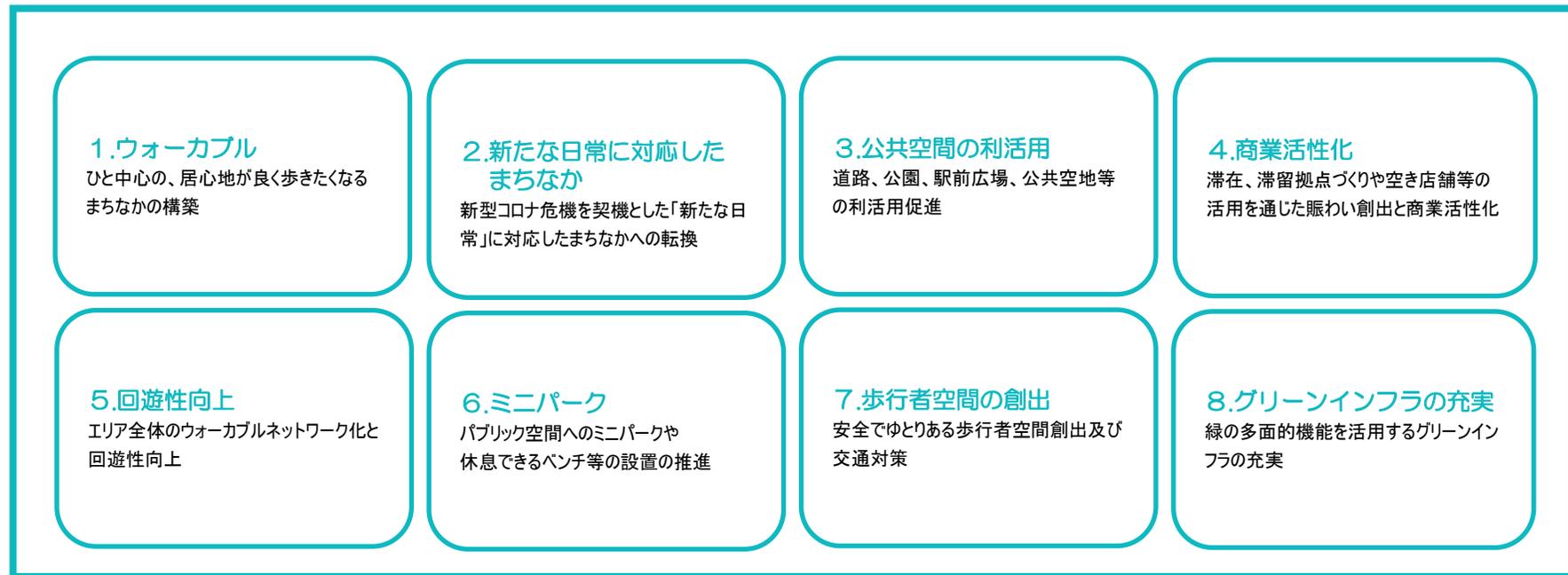
### 03 エリアの目指す将来像



# 目指す将来像に向けた 8つの観点との連携

対象地の課題や、各エリアの分析を基に、あさかエリアデザイン会議では8つの観点からまちの将来像を検討します。

## エリアビジョン



### 緑とまちなかの魅力向上構想

朝霞市において魅力あるまちなかづくりを実現するため、公園・緑地や道の空間の魅力向上方策について、具体的な検討を行うもの。  
公園緑地や道路空間などまちなかの屋外空間が市民の健康で快適な暮らしの基礎として一層の機能を発揮するよう、まちなかで歩く・休憩する・景色を  
楽しむといった様々なシーンを想定し、屋外空間の快適性の向上を実現する工夫のモデル的な実現を目指します。

緑とまちなかの魅力向上構想と連携して未来ビジョンを描くことで、快適な屋外空間の実現へ繋がる。

また、エリアプラットフォームの計画地エリアをモデル地区として、朝霞市全域へ魅力あるまちづくりを広げる。

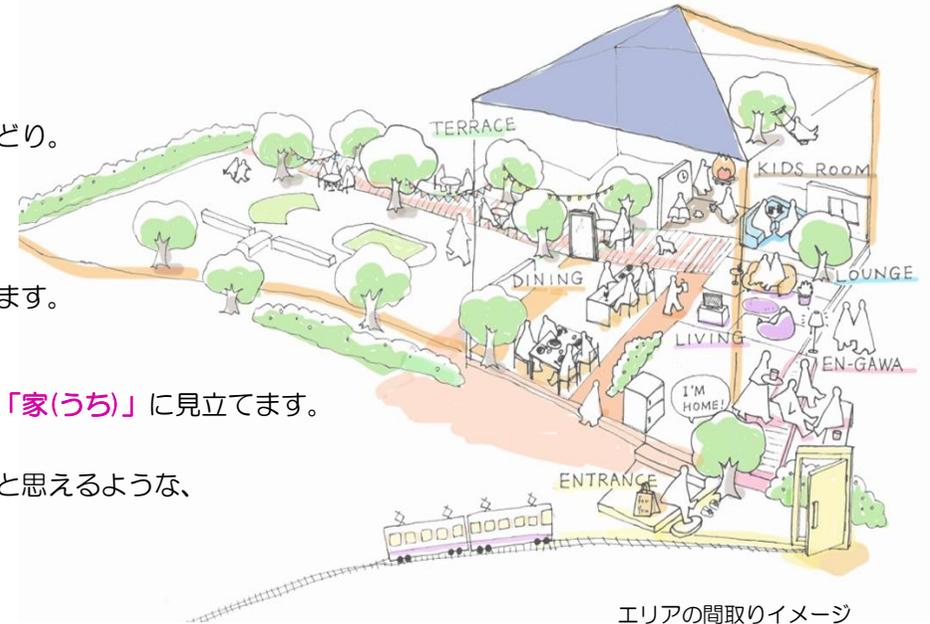
## 【エリアビジョンのコンセプト】

### “マイホーム” あさか” ~みんなが帰りたくなるまち~

駅前から商店街の賑わいを抜け、まちなかに進んでいくと、その先に広がる武蔵野のみどり。住宅街と商店街、シンボルとなるみどりが程良く肩を並べているまち、朝霞。そんな朝霞のまちで、住んでいる人も訪れる人も、誰もが『居心地が良く、歩きたくなるまち』、『人でにぎわう魅力的な商業エリア』の創出を目指して、朝霞だからこそ実現できる朝霞ならではの未来(=未来ビジョン)を皆さんと共に描きます。

#### 『まち=家』

みんながそれぞれのお気に入りの場所を見つけられるように、朝霞のまちをひとつの「家(うち)」に見立てます。家は玄関や居間、応接間など様々な役割と機能を持った空間で出来ています。それぞれの空間の特性に合わせた「まちの間取り」を決め、まちなかが自分の「家」と思えるような、まるで自分の「家」にいるような感覚になる。そんな居心地の良い「**おうちのようなまち**」をつくります。



エリアの間取りイメージ

## 【エリアビジョンのキーワード】

優しい気持ちが溢れるまちづくりが末永く続いていくように。朝霞市の名称である「あさか」から、エリアビジョンのコンセプトのイメージとして3つのキーワードを抽出しました。

あさか



ASAKA



**A** **S** **A** **K** **A**  
Amenity Sustainable And Kindness



四季折々の花と緑の景色。太陽の光や頬をなでる風。武蔵野の豊かな自然環境がまちなかに溢れ、心地よい自然の揺らぎが日々の暮らしを潤してくれる未来を描きます。

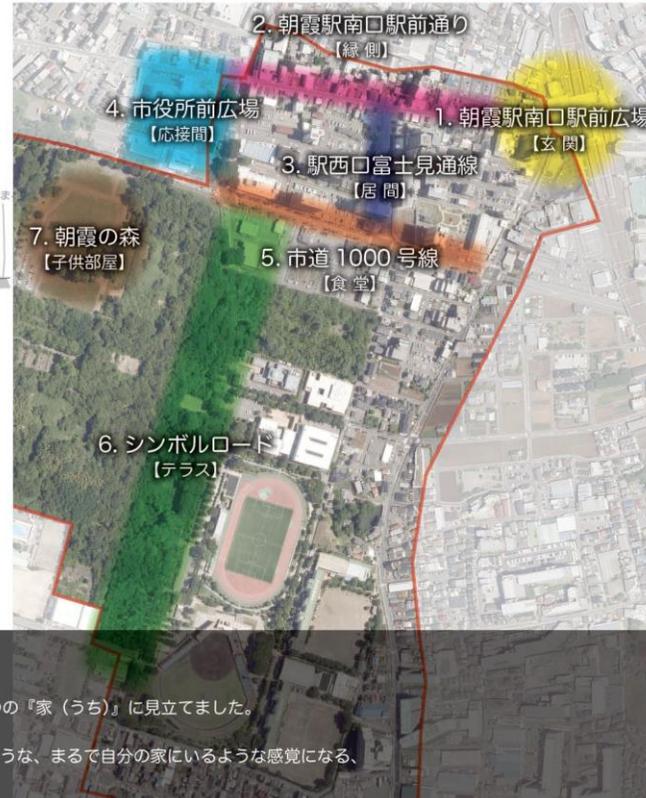


過去から今。今から未来へ。活気に満ちた人々の営みが、まちに愛着と誇りを生み、地域・まち・未来を形作っていきます。



思いやりを育むまちでありたい。武蔵野の多様な自然に恵まれた朝霞だからこそ、多様な価値観を受け止め、温かな優しさに包まれて、のびのびと交流できる未来を描きます。

# 【マイホーム “あさか”】ゾーニングイメージ



## 『まち=家』

みんながそれぞれのお気に入りの場所を見つけられるよう、朝霞のまちをひとつの『家（うち）』に見立てました。家には、居間や応接間など、様々な役割と機能をもった部屋が必要です。空間の特性に合わせて“まちの間取り”を決め、まちなかが自分の家と思えるような、まるで自分の家にいるような感覚になる、そんな居心地の良い『おうちのようなまち』を思い描きました。

### 6 シンボルロード

【Terrace テラス】

まちの象徴となり、五感で感じるみどりのみちへ



### 7 基地跡地周辺（青葉台公園・あさかの森）

【Garden 庭】【KidsRoom 子供部屋】

遊びながら学ぶ空間へ



### 1 朝霞駅南口駅前広場

【Entrance 玄関】

人びとを出迎え、送り出す  
おもてなしの玄関口



### 2 朝霞駅南口駅前通り

【EN-GAWA 縁側】

交通を整理し、歩く人を  
大切にするみちへ



### 3 駅西口富士見通線

【Living 居間】

ゆとりの空間を活かして  
特色あるみちへ



### 4 市役所前広場（花の池テラス）

【Lounge 応接間】

まちの顔として、朝霞の  
未来を象徴する広場へ



### 5 市道1000号線

【Dining 食堂】

食事を楽しみながら、  
発見のあるみちへ

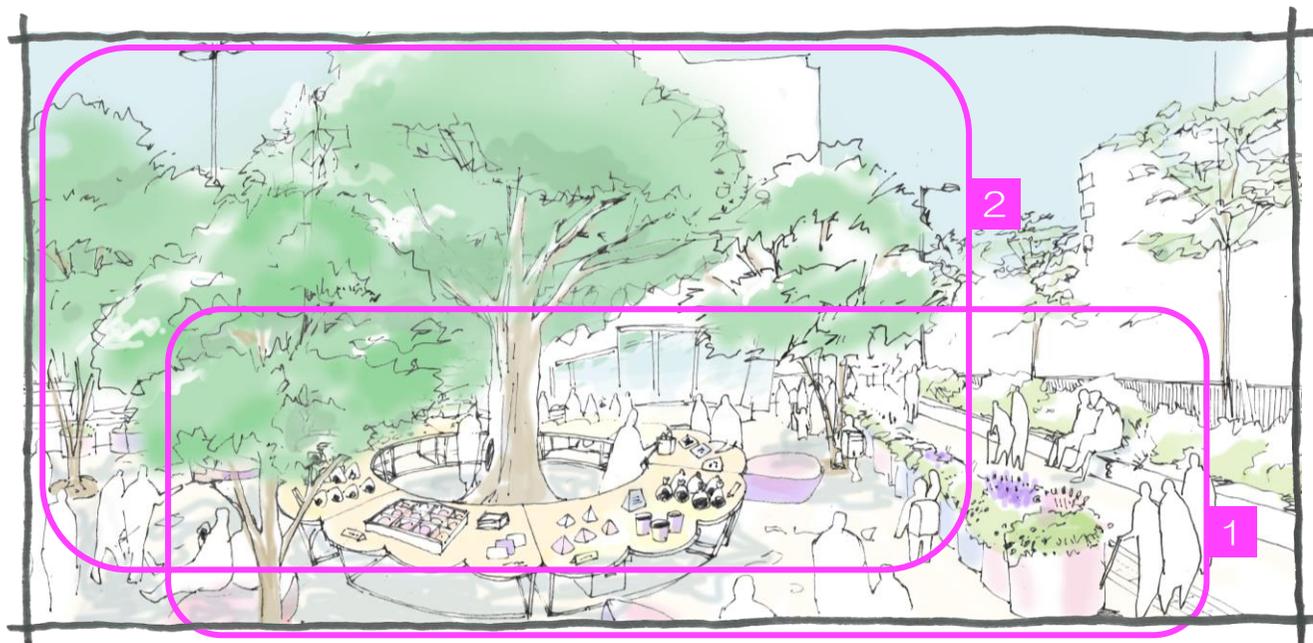
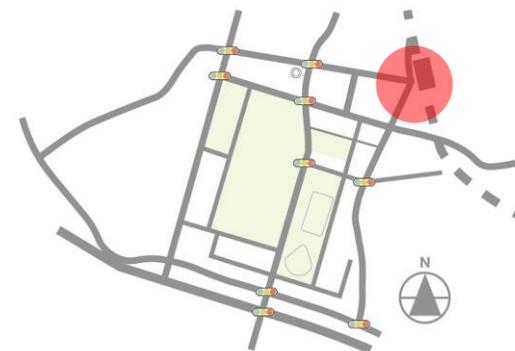


# 1 朝霞駅南口駅前広場【Entrance 玄関】

## 人びとを出迎え、送り出す、おもてなしの玄関口へ

電車を降りて改札を抜け、エスカレーターを降りると目の前に広がるまちの『玄関』。

ここでは、武蔵野の面影を感じさせる景色と、多世代が交流する賑わいの風景が人々をおもてなしします。



日常的な朝霞駅南口駅前広場の様子

- 1 広場の有効活用  
ファニチャーやサインの設置により、利用方法の多様化を図る
- 2 樹木による日陰の創出

### 空間イメージ 広場を活用した日常の憩いの場

- ・ 朝霞の顔となる賑わいのある玄関口
- ・ 安心と心地よい滞在ができる人々の交流エリア
- ・ 人と車両の安全が確保されたエリア

### 取り組みの方向性

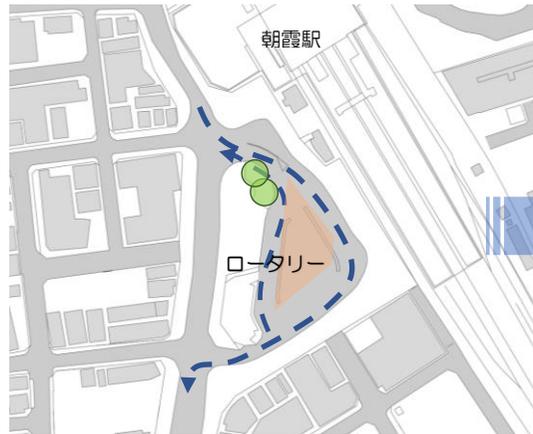
- ◆ 公共空間を活用し、人々が日常的、非日常的に利用できる空間を形成する。
- ◆ 滞留空間として整備し、ファニチャーや日除け・サインを設置することで、見通しの利く安心・安全な空間を形成する。

### イメージ

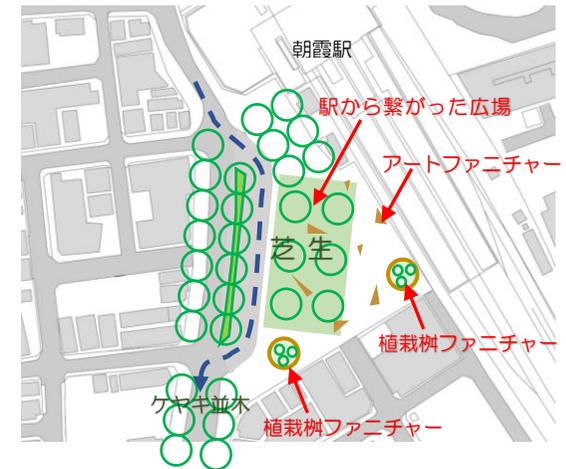


# 【未来のイメージ】

現況



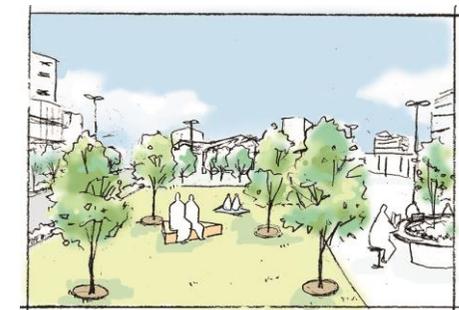
未来



- 1: 広場の拡大  
イベント利用、交流、憩いの場として十分な広さを確保。
- 2: 広場への横断をしやすい  
広場に寄ろうと思える、求心力のある空間作りや、駅からの繋がりを  
感じさせる植栽・舗装のデザインの検討。
- 3: 緑量を増やす  
緑陰や、芝生広場、シンボルロードを想わせるケヤキ並木等、むさし  
のフロントのおもてなしをする。
- 4: 低未利用地の活用方法の検討。
- 5: 駅前空間全体を整備  
現状の駅前広場とロータリーの位置を入れ替え、快適な広場空間  
を創出。



マルシェ等の広場活用



芝生広場にはデザイン性の高いファニチャーを設置し、憩いの場を創出する。



低未利用地の活用

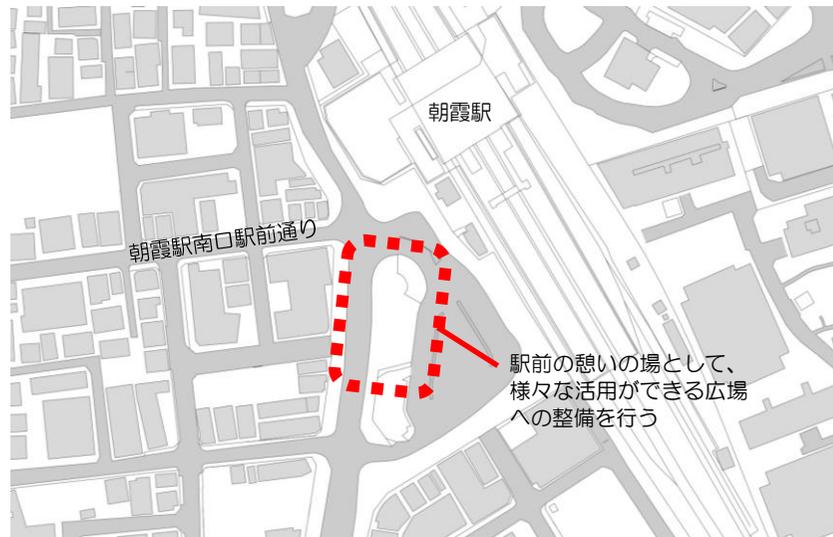


緑陰や並木道



市道7号線の並木と連動して、広場にも樹木を植栽。緑陰により、心地良い広場空間となる。

## 【活用イメージ】



駅前の憩いの場として、  
様々な活用ができる広場  
への整備を行う

舗装で閑散としている駅前広場に樹木やファニチャー等を設置。  
朝霞ならではのメニューを組み込むことで、駅利用者が身近なところで朝霞の魅力に触れることができる。  
車両と歩行者との安全面・利便性を考慮し、広場と車道の両方向からの整備を検討する。



植栽と一体となったファニチャーを設置。  
周りを樹木に囲まれ、落ち着けるおしゃれな広場。  
リモートワークや待ち合わせ場所にも活用される。



広場を活用したアスレチックや足湯の設置。  
こどもの遊び空間と、見守る大人達の寛ぎの空間を一緒に楽しむ。



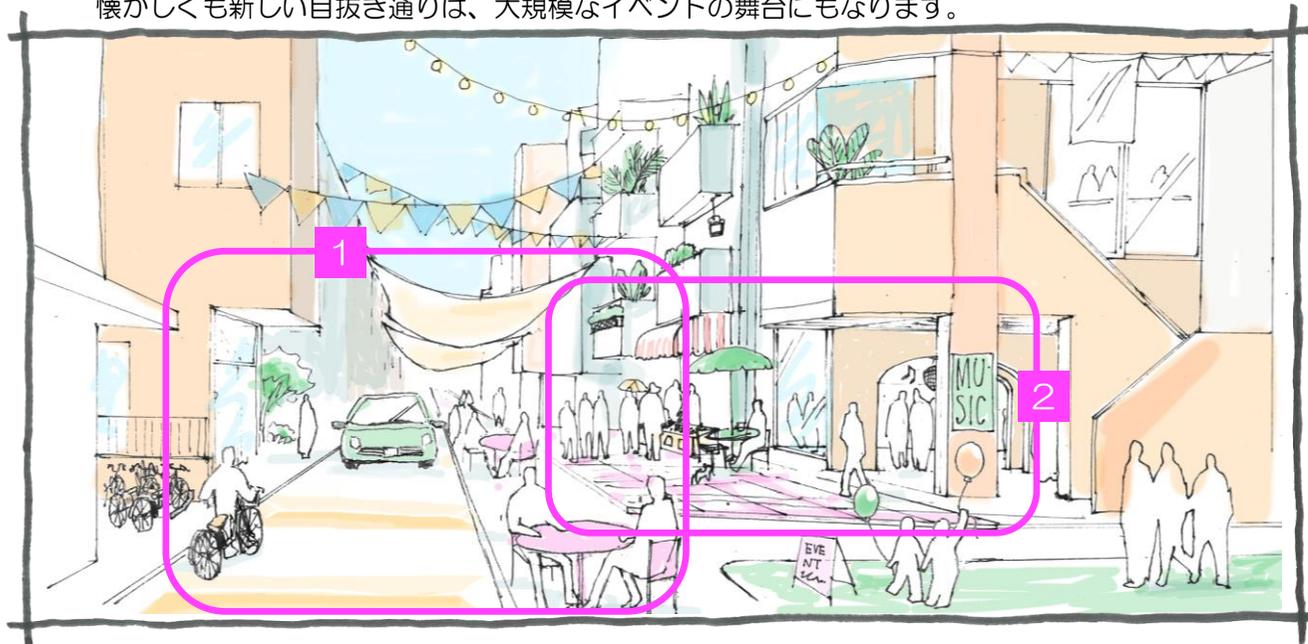
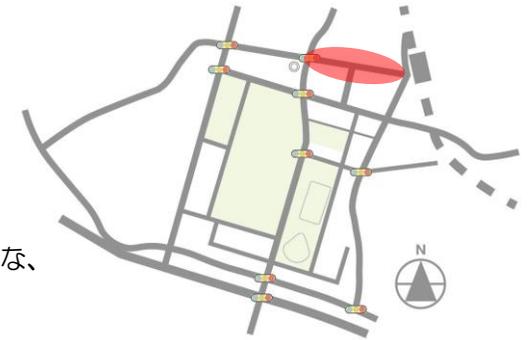
にんじん畑や、それらを使った店舗の展開。  
芝生広場を設置し、寛ぎの空間として活用する。

## 2 朝霞駅南口駅前通り【EN-GAWA 縁側】

### 交通を整理し、歩く人を大切にするみちへ

安全な歩行空間を実現し、軒を連ねる店舗から賑わいが滲み出し、顔なじみの笑顔と声掛けが生まれる『縁側』のような場所へ。予定外の買い物をしてしまったら、ついつい道端で世間話に花を咲かせてしまうような、歩きたくなる『人の道』です。

懐かしくも新しい目抜き通りは、大規模なイベントの舞台にもなります。



日常的な朝霞駅南口駅前通りの様子

- 1 車道の有効活用  
歩行者天国実施や、一方通行化など
- 2 店舗前空間の有効活用  
店舗内の賑わいを屋外まで滲み出させる

### 空間イメージ 安心して利用できる歩行空間の実現

- ・ 安心できる歩行空間のあるエリア
- ・ まちの賑わいを創出する
- ・ 多様な人々の交流が生まれ、活気を創出するエリア

### 取り組みの方向性

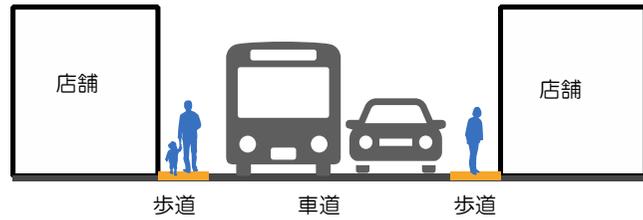
- ◆ 一方通行化等の交通規制により、必要な交通機能を確保しながら、歩行者空間の安全性を確保する。
- ◆ 車と人、自転車が共存する空間へと転換し、より多くの人々で賑わう商店街を創出する。
- ◆ 「人と人、人とまちのつながり」を生み出す拠点として、イベント開催を積極的に行い、市全域の発展へと繋げる。
- ◆ 店舗の賑わいが屋外までにじみ出すような、多様な利用を創出する。
- ◆ 無電柱化やユニバーサルデザイン化を推進する。

### イメージ

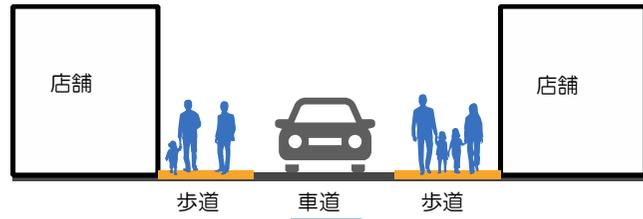


# 【未来のイメージ】

① 現況 (車両相互交通・歩道)



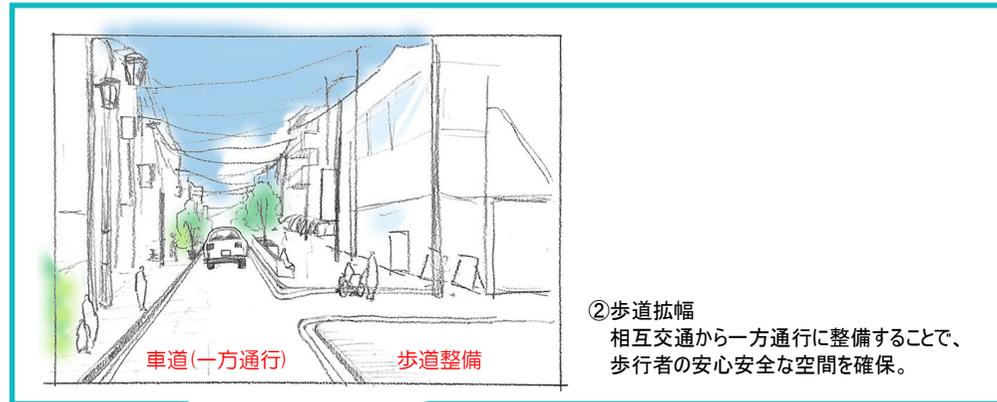
② 一方通行化により車道を狭め歩道拡幅



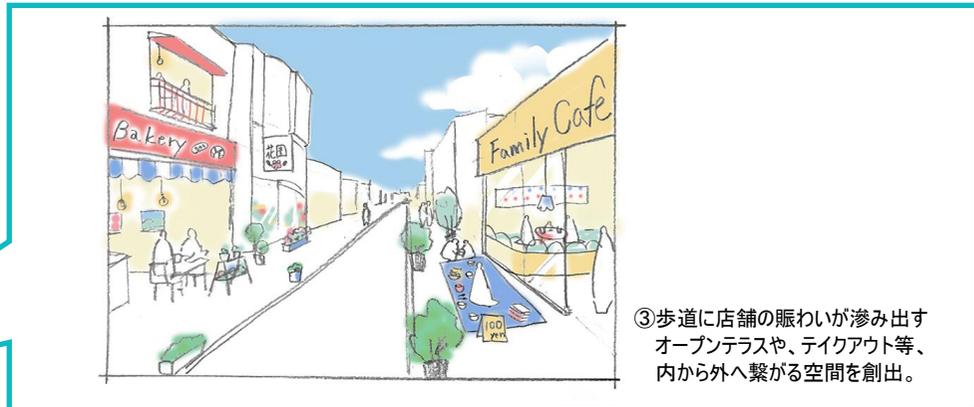
③ 店舗からの滲み出し



④ 歩行者天国



② 歩道拡幅  
相互交通から一方通行に整備することで、  
歩行者の安心安全な空間を確保。



③ 歩道に店舗の賑わいが滲み出す  
オープンテラスや、テイクアウト等、  
内から外へ繋がる空間を創出。

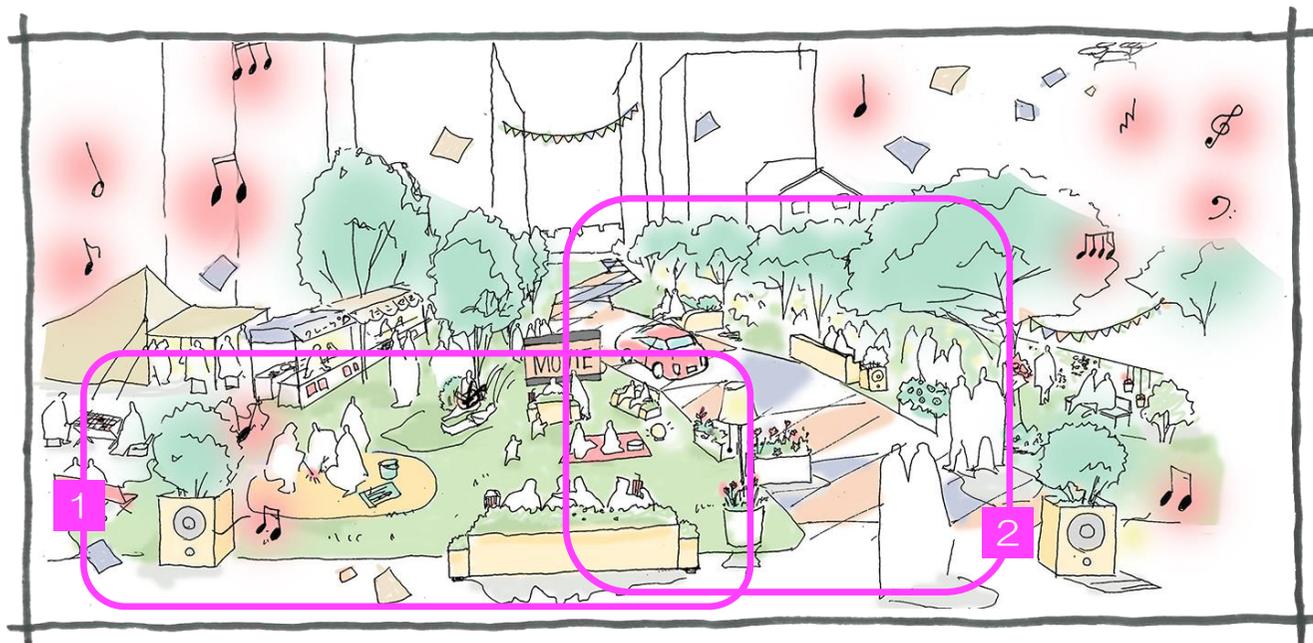
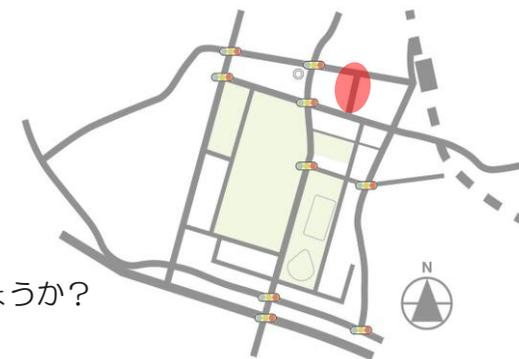


④ 歩行者天国  
イベント開催時などに交通整備を行い、通り  
全体で賑わいを創出。

### 3 駅西口富士見通線【Living 居間】

#### ゆとりの空間を活かして特色あるみちへ

賑やかな通りに挟まれながらも閑静なこの場所は、歩き疲れた足を休めることができる休憩ポイントに。まるで『リビングルーム』のように誰もが気軽に憩える空間として、みんなのお茶の間にはいかがでしょうか？



日常的な駅西口富士見通線の様子

- 1 公共空地を活用した人々の憩いの広場の整備
- 2 車道の幅員縮小  
歩道を拡幅し、歩行者が安心して通行できる空間の整備

#### 空間イメージ 人中心の街路空間

- ・ 2箇所の公共空地を広場として有効活用し、賑わいを創出するエリア
- ・ 歩行者優先の道づくり
- ・ みどり空間、グリーンインフラの取り組み

#### 取り組みの方向性

- ◆ 公共広場の活用による交流の場を設置する。
- ◆ 朝霞駅南口駅前通りと連携したイベント等の道路の有効活用を行う。
- ◆ グリーンインフラやファニチャーも取り入れた、人中心の安心安全なみちづくり。

#### イメージ



# 【未来のイメージ】

## 公共空地活用方法



人々の憩いの場として、ファニチャーを設置。  
公共空地-2の整備は、公共空地-1と連動した  
広場としてイベントでも活用できるようにする。

### 公共空地-1 利用イメージ



### 公共空地-2 整備イメージ



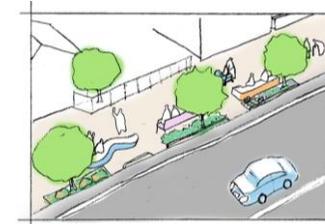
緑地整備により、様々な活用法のある広場とする。  
賑わいを創出する広場とする。

## 歩車道活用方法

### ① 現況 (車両相互交通・歩道)

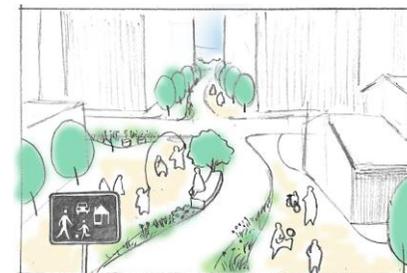


### ② 歩道にファニチャー設置



ファニチャー設置により、  
ウォークブルなまちづくりの実現

### ③ 歩道整備・ファニチャー設置

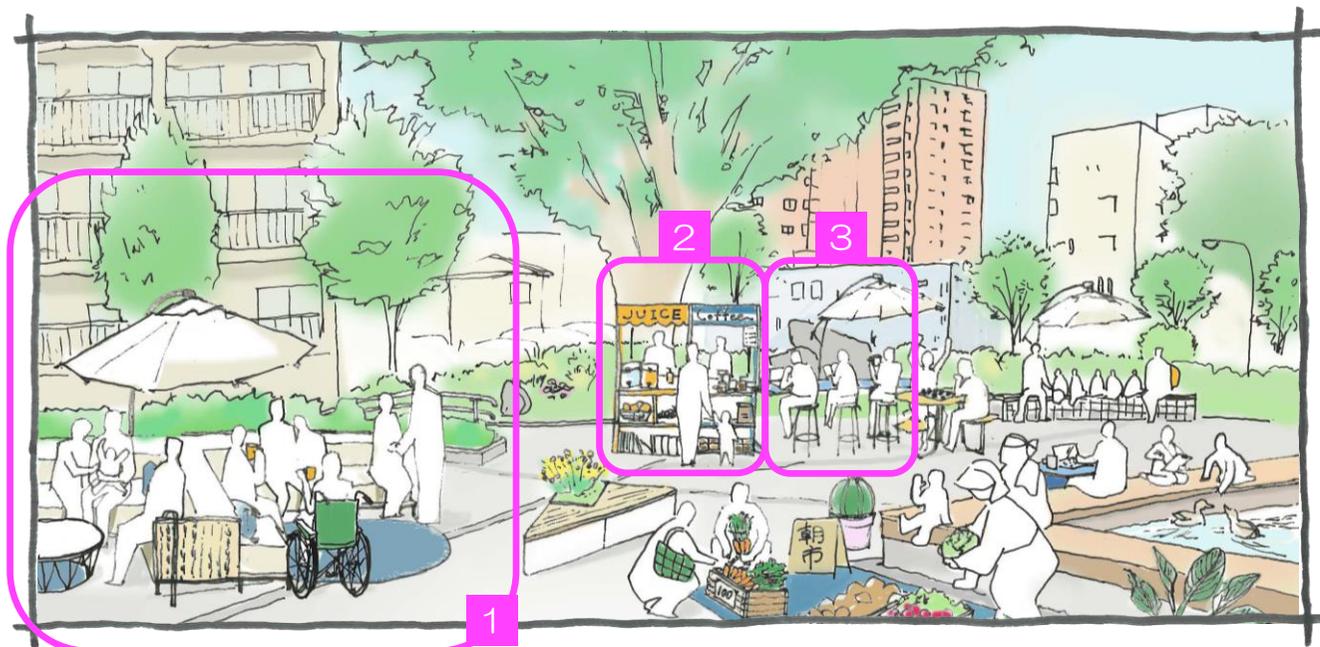
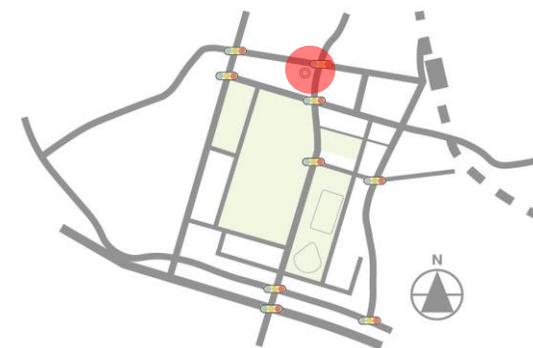


歩行者に優しいみちづくりで  
安心安全な歩行空間の確保

## 4 市役所前広場（花の池テラス）【Lounge 応接間】

まちの顔として、朝霞の未来を象徴する広場へ

市民の方々はもちろん、それ以外にも多くの方々をお迎えするこの場所は、爽やかで清涼感のある『応接間』とします。用事がある人も、そうでない人も、立派なケヤキの足元の水と緑のラウンジで朝霞の魅力に触れ、むさしのフロント朝霞の魅力を知ることになるのです。



日常的な市役所前広場の様子

- 1 ラウンジのように寛げるファニチャーの設置
- 2 ドリンクスタンドの出店
- 3 コワーキングスペースの設置

### 空間イメージ 都会的空間と自然をつなぐ、憩いと交流の拠点

- ・ 水辺の花とみどりを楽しみながら、多様な人々が心地よく過ごせるエリア
- ・ まちの魅力の発信源となり、まちなかを繋ぐ拠点。

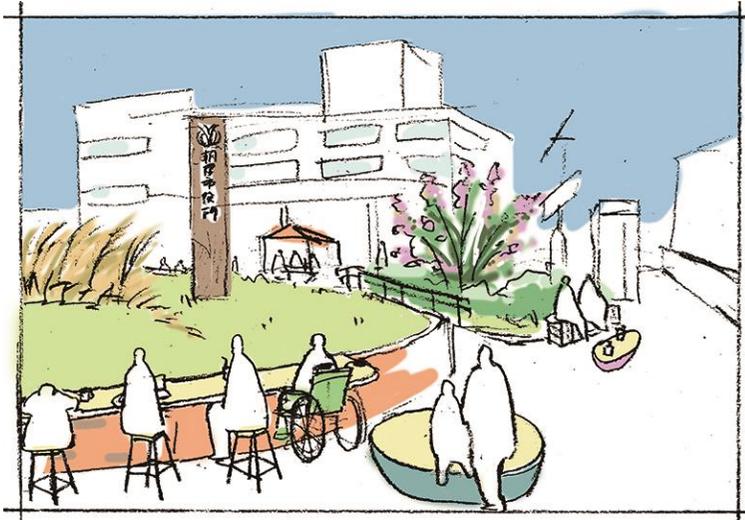
### 取り組みの方向性

- ◆ 利用者が居心地良くつろげたり、歓談や飲食、テレワークなど 多目的に使えるラウンジのような空間をファニチャーや日除けの設置などにより創出する。
- ◆ ASAKA STREET TERRACE、冬のあかりテラスなどに活用する。
- ◆ 開放的な広場を利用したイベントを開催する。
- ◆ 情報発信ツールを設置し、イベントや商店街などのまちの情報を発信することで地域活性化につなげる。

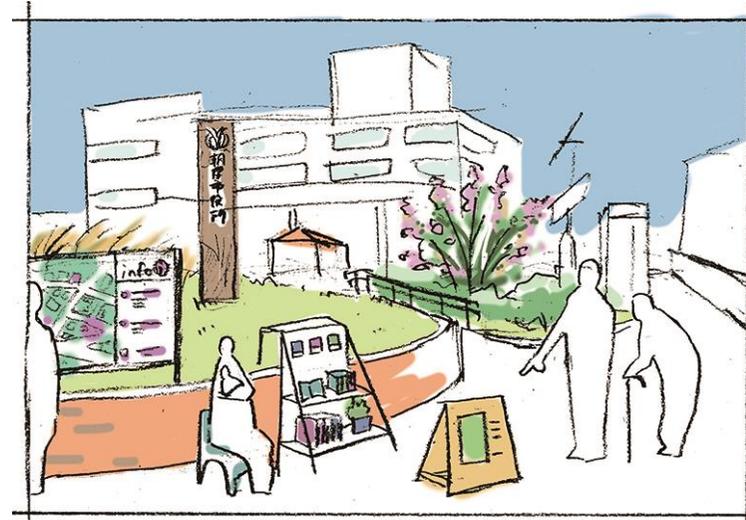
イメージ



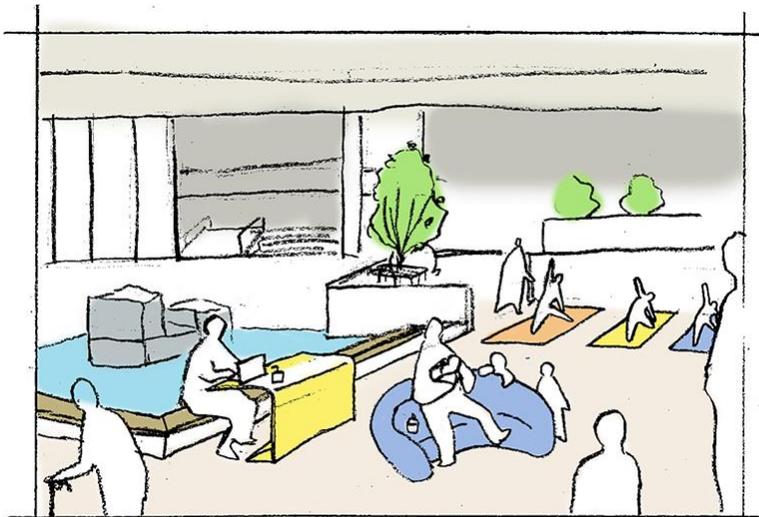
## 【未来のイメージ】



様々なファニチャーを設置。  
広場と一体となって多様な活用方法を提案。



日常的に様々な情報を発信する。



花の池を中心とした広場は、休憩や仕事、体を動かす等の活用方法を提案

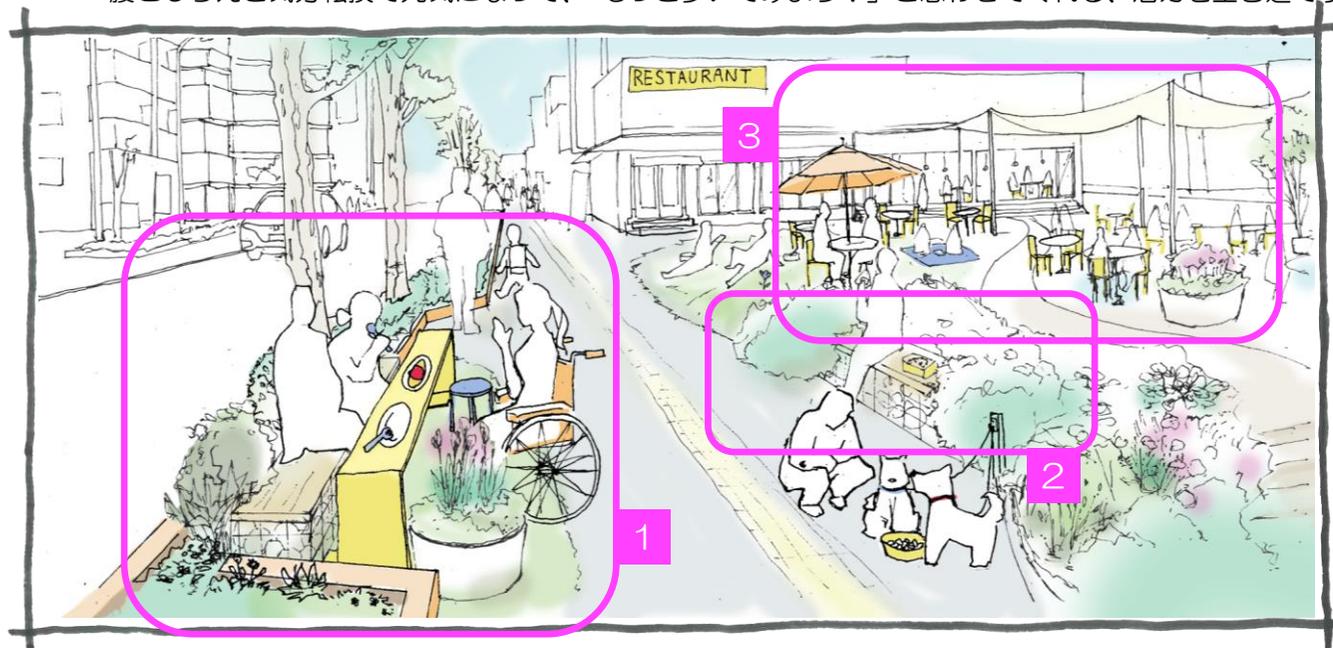
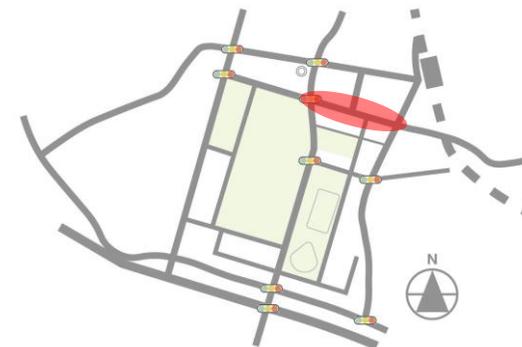


広場に来ることによっていろいろな街の情報を把握できる装置の設置。

# 5 市道 1000 号線【Dining 食堂】

## 食事を楽しみながら、発見のあるみちへ

ロードサイドタイプの大型飲食店が建ち並ぶこの道は、ゆったりと食を楽しむ『食堂』です。  
魅力的な店舗アプローチや屋外テラス、ポケットスペースで、お客さんも歩行者も楽しめます。  
腹ごしらえと気分転換で元気になって、「もっと歩いてみよう！」と思わせてくれる、活力を生む道です。



日常的な市道 1000 号線の様子

- 1 ファニチャーの設置による寛ぎの空間の創出
- 2 店舗と協働の植栽地整備
- 3 店舗駐車場を活用したイベント等の開催

### 空間イメージ 沿道店舗と一体となった歩道空間の充実

- ・ 歩道の安全が確保されており、街路樹による緑化でまちの景観を形成しているエリア
- ・ 植栽地を活用したグリーンインフラの実現

イメージ

### 取り組みの方向性

- ◆ 店舗前の駐車場等と一体となった、ウォークアブルな歩道空間を創出する。
- ◆ 街路樹と店舗側の植栽地の統一感を図る。
- ◆ バス停や交差点周辺など、人々の滞留が多い箇所にファニチャーを設置することで、憩いの場所を創出する。



# 【未来のイメージ】

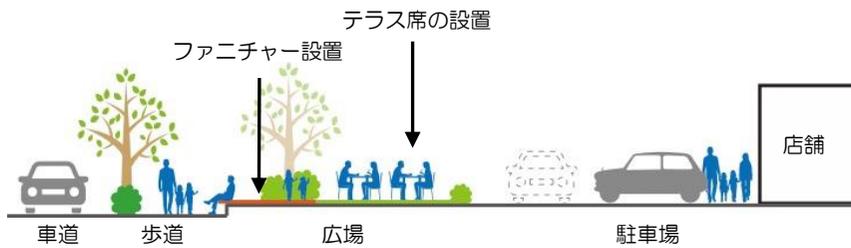
①現況



②歩道側にファニチャーを設置



③駐車を一部活用した広場作り



②イメージ



植栽地の段差を使ったファニチャーを設置。植栽地の充実を図る。

③イメージ

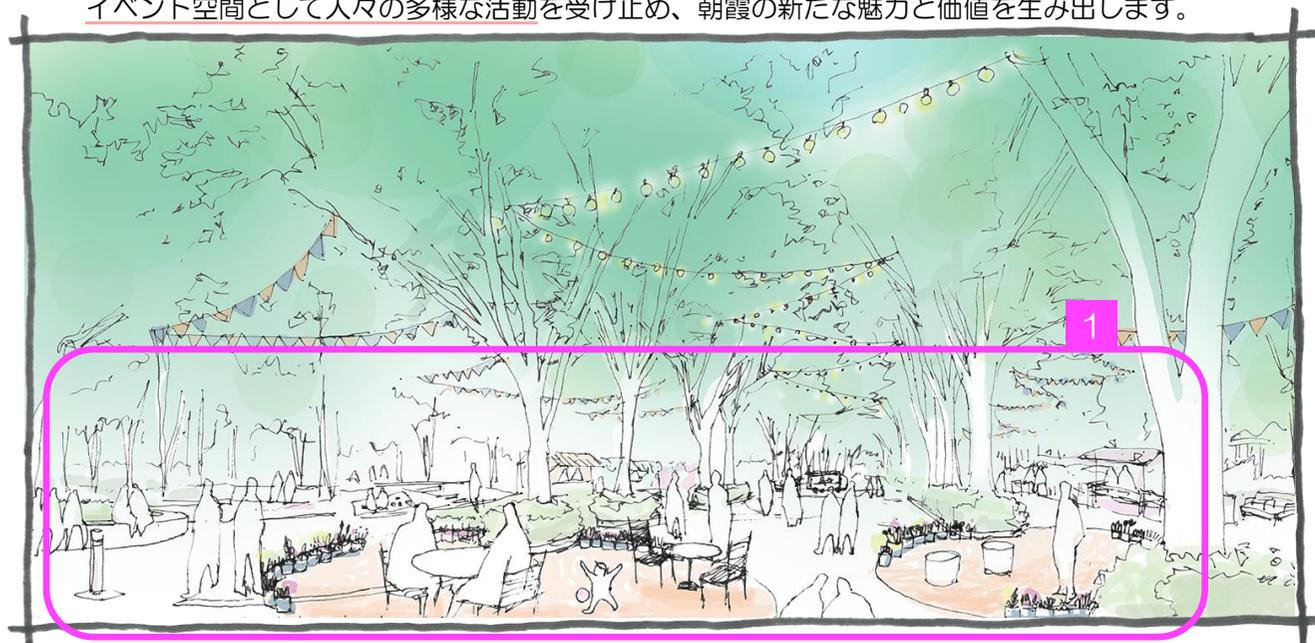
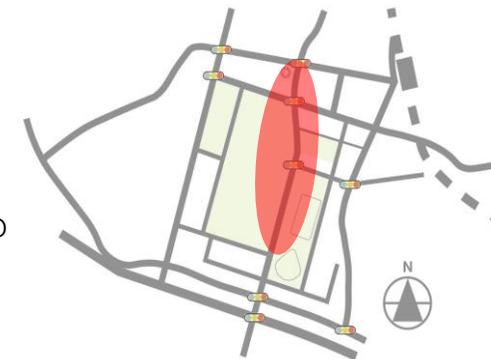


店舗と協働した広場作り。  
テラス席の設置や、歩行者の憩いの場を創出。

## 6 シンボルロード【Terrace テラス】

### まちの象徴となり、五感で感じるみどりのみちへ

武蔵野の木々と木漏れ日が優しく包んでくれるシンボルロードは、人々とみどりが出会う『テラス』として日々の暮らしに安らぎをもたらしてくれます。ウォーキングやランニングなど、日常的な利用だけではなく、時にはイベント空間として人々の多様な活動を受け止め、朝霞の新たな魅力と価値を生み出します。



日常的なシンボルロードの様子

1 各種イベントの開催

### 空間イメージ 自然の中に包まれる安らぎの空間

- ・ 自然溢れるエリア
- ・ ケヤキ並木の足下は開放的な整備が行われている

### 取り組みの方向性

- ◆ 日常的なイベントの開催や食事施設・休憩施設の設置等、日常的な利用の充実を図る。
- ◆ 年間を通しての様々なイベントの開催を実現する。
- ◆ さらなる魅力向上に向け、様々な活用方法を検討・実施する。
- ◆ 無電柱化を推進する。
- ◆ グリーンインフラや暑熱対策の充実を図る。
- ◆ 横断歩道の整備等を行うことで、中央公民館や総合体育館、市立図書館等、向かい側の公共施設との連携
- ◆ 空間の魅力を向上させるサイン、照明の設置を検討する。

### イメージ



# 【未来のイメージ】

## ①日常利用



## ②イベント等

車道を開放し、歩道・緑地と一帯で賑わいを創出



整備に先駆けて、キッチンカーの出店頻度を上げるなど、より有効的な活用方法を模索する。



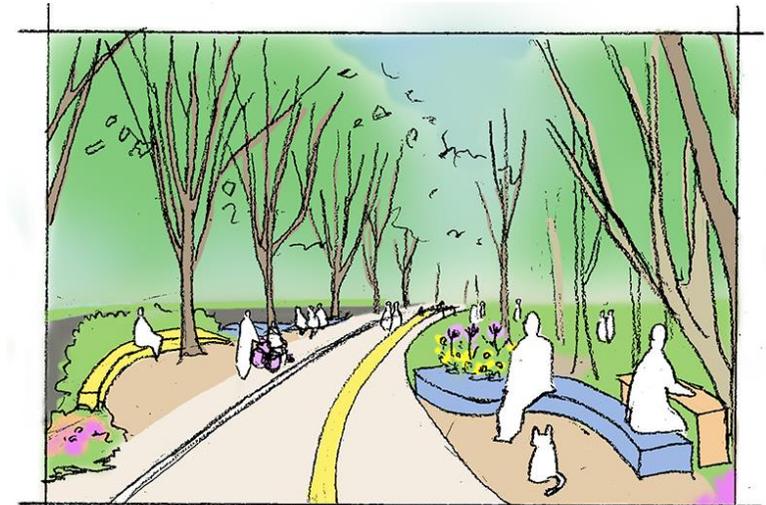
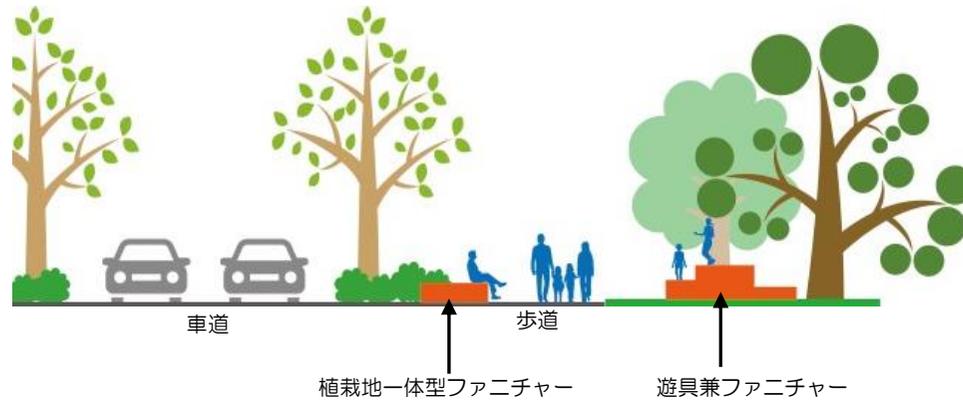
- ・日常的に音楽にふれ合う空間を創出。様々なシーンに合わせた音楽がまちを彩る。
- ・シンボルロード向かいの各公共施設で行っているイベント・活動やその利用者との連携も想定する。



車道を活用したイベントの開催。  
一体利用することで、開放感のある空間を創出。

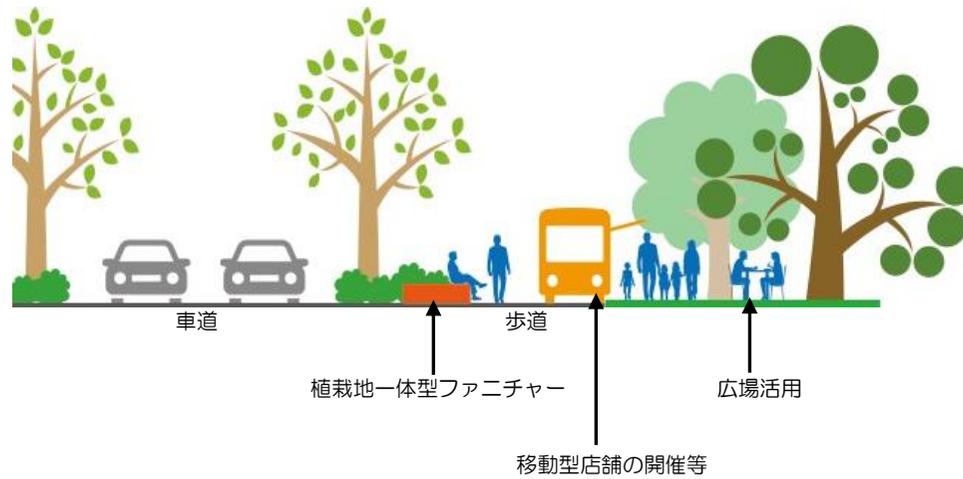
## 【未来のイメージ】

### ①ファニチャー設置



ファニチャーを設置。  
動線に変化を与える。

### ②緑地・歩道を活用

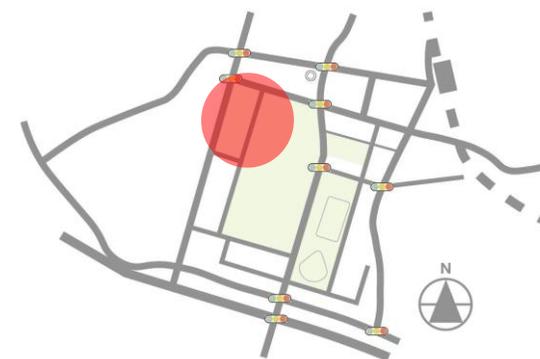
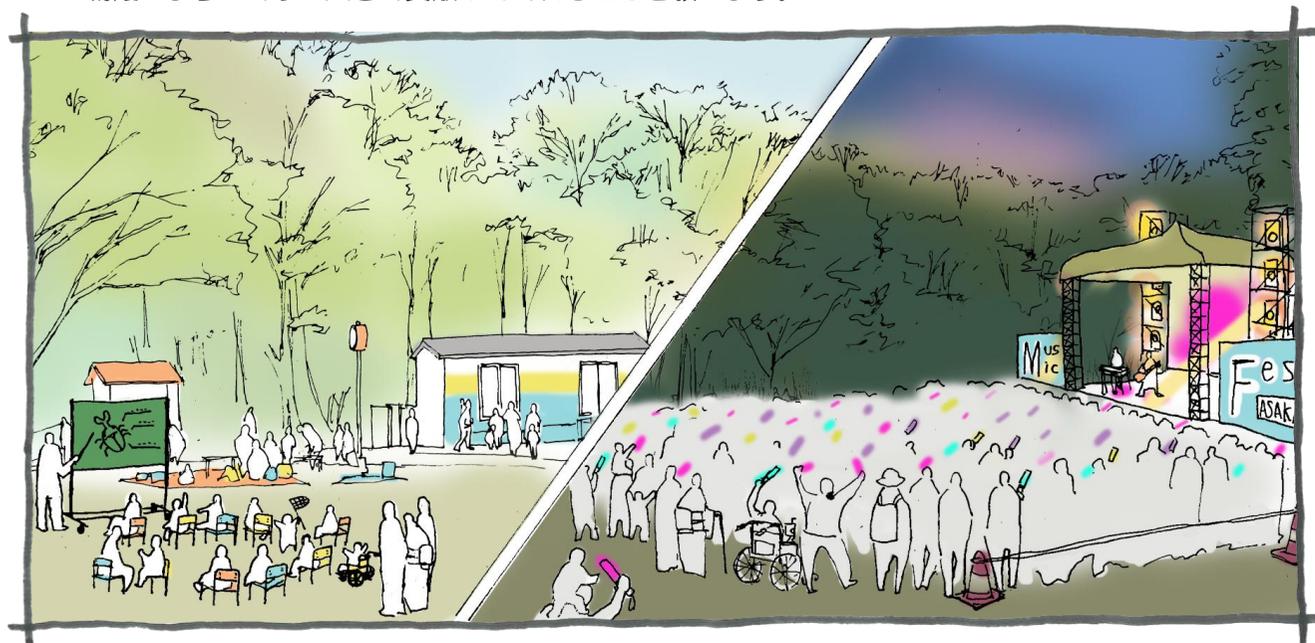


移動型店舗の開催や、マルシェの開催。  
広場・歩道の一体利用で心地よい歩行空間を創出。

## 7 基地跡地周辺（青葉台公園・あさかの森）【Garden 庭】【KidsRoom 子供部屋】

### 遊びながら学ぶ空間へ

子供たちの元気な声が響きわたる朝霞の森は、子供たちを伸びやかに育む青空の『子供部屋』です。  
既成概念にとらわれず、自由な発想で遊びながら学んだ子供たちが、  
朝霞のまちづくりに大きく貢献してくれることを願います。



日常的な朝霞の森の様子

### 空間イメージ 遊びや学びがある自由な開放空間

- ・ 自然を最大限に活用したアクティビティエリア
- ・ 音楽フェスやイベントの開催

### 取り組みの方向性

- ◆ 日中利用プログラムや、夜間利用プログラムの検討。
- ◆ イベントの特別プログラムの検討。
- ◆ 朝霞市基地跡地公園・シンボルロード整備基本計画[改訂版]に基づいた整備の推進。

イメージ

